

2023（令和5）年度 学校経営方針

伊賀市立上野南小学校

1 経営方針

今年度から、神戸小学校・比自岐小学校・依那古小学校の3校が統合し、「上野南小学校」となった。統合1年目であり、児童・保護者・地域並びに教職員をとりまく環境は大きく変化し、それぞれが、期待と不安の入り交じった思いをもった状況と推察される。学校は、各自の不安を取り除く取り組みを進め、何より子どもたちが、未来に夢や希望を持ち、他者と協力しながら、自立した心豊かな人間として生き抜いていけるよう、以下の点を重視した学校経営を進める。

(1) 信頼される学校づくり

学校は、子どもたちの健全育成に向けて、家庭、地域住民や関係諸機関と連携・協力しながら、安全・安心で充実した教育活動を行うことにより、信頼される「開かれた学校づくり」を進める。

(2) 「上野南小学校になってよかった」と思える満足度の高い学校づくり

教職員が、教育に対する意欲と情熱、使命感をもって、子どもたちの目線に立ち、同じ目的を共有し、組織的に活動していく学校にしたい。そのことにより、子どもたちが学ぶ楽しさを感じるとともに、教職員が教育支援する喜びや充実感を持てる学校づくりを進める。

[具体的経営方針]

- 全教育活動を通して人権・同和教育の推進を図ると共に、児童一人一人のよさや個性を認め、持てる力を発揮できる教育活動の展開に努める。
- 仲間と協力し合って、心豊かに主体的・創造的に生きることができるよう能力を育成する。
- 「学校マニフェスト」を作成・実施する中で、評価による改善活動（PDCA サイクル）を繰り返す。
- 全教職員が学校経営全般に参画していることを自覚し、チームとして教職員が協働することにより、学校組織としての機能を十分発揮するように努める。
- 児童に対するより高い教育活動を展開するために、家庭や地域、関係機関との信頼関係を築きながら、連携・協力していく。

2 教育目標 「命と人権を大切にし、なかまと学び、夢に向かって歩み続ける子」

3 めざす子ども像

(1) 自ら学び続ける子（学力）

学習の基礎・基本を習得し、課題に対して主体的に学び、新たに生じた問題に対し、解決に向け繰り返し学び続ける子

(2) 心豊かな子（人権）

自他の命や人権を尊重し、人権課題を自分ごとと捉え、正しく判断する中で、仲間と協力し合いながら問題解決を図る子

(3) 夢と希望をもって前向きに行動できる子（キャリア）

将来の夢の実現に向けて、地域や社会と結びついた学びの中で、主体的に学び、社会的自立を図ろうとする子

4 努力目標と具体的な取り組み

- (1) 全ての教育活動を通して、人権を尊重し、差別を見抜き、差別を許さない個と集団の育成をめざす。
 - ① 生活科や人権総合学習を核にして、「聴き合う」「考え合う」「伝え合う」力を高めながら人権・部落問題学習を進める。人との出会いや身近な課題から自分の生き方を考えさせる人権総合学習を推進する。さらに、学習したことを通して、人権を尊重する仲間としてつながり、気づいたことや学んだことを生活の中に活かしていけるようにする。
 - ② 児童の実態やその背景を的確に把握し、保護者や地域の人たちの願いを知り、連携しながら教育を進める。そのため、保護者との対話を通して信頼関係を構築するとともに、自己肯定感を高められるような家庭訪問を実施する。
 - ③ 教職員自身が部落差別をはじめとするあらゆる差別の本質を正しく認識し、自己の意識変革を図り、共通理解の上で人権・同和教育を推進する。そのため、差別の現実に関し、学び、研修会・研究会など様々な自己研鑽の場に積極的に参加する。
- (2) 一人一人の児童が確かな学力を身につけ、生き生きと主体的に学習する授業の創造をめざす。
 - ① 「聴き合う」「考え合う」「伝え合う」力を育てるため、特に国語科に焦点を当てた授業研究を

行い、自分の考えを書くことで深め、伝え合う場面を設定していく。

- ② 考える力のもとになる基礎学力をつけるため、全文視写や読解指導、反復練習等を進める。
 - ③ 児童が意欲的に学習に取り組み、気づきや発見のある授業を行うため、指導方法の研究に努める。
 - ④ 家庭学習の方法を指導し、自学自習の力をつけさせる。
 - ⑤ 読書に関する関心を高め、本を読む習慣を身につけさせる。
 - ⑥ 身につけた基礎学力を活用して、課題解決をするために必要な思考力、判断力、表現力などの能力を育み、「主体的・対話的で深い学びの実現」をめざした取り組みを行う。
- (3) 互いに支え合い、学び合い、高め合う集団の育成に努める。
- ① 思いを出し合えるなかまづくり・学級集団づくりの充実をはかる。
 - ② 一人一人のよさや思いがわかり、お互いに認め合える場を設定する。
 - ③ 学習や生活に課題がある児童を核として、学力や社会性の獲得を支援し、共に学び、共に高まり合う集団の育成に努める。
 - ④ 生活を綴ることによって、自分の暮らしをみつめ、なかまと交流する。また、なかまの姿に目を向ける取組を行う。毎日の日記をもとにした学級通信や作文を読み合う活動を取り入れる。
 - ⑤ 異年齢集団による縦割り班活動や集会等を工夫する。
- (4) 一人一人が生命を大切にし、健康で安全な生活習慣の定着をめざす。
- ① 感染症対策に取り組み、児童の健康で安全な生活環境の維持向上に努める。
 - ② 基本的な生活習慣の定着を図るように努める。
 - ③ 体育の授業を中心として、体力の向上と健康の保持増進を図る。
 - ④ 生命の尊厳を理解し、自分も他の人も大切にす児童の育成に努める。
 - ⑤ 危機的状況下で身を守るため、考え行動する力を育てる防災教育を進める。
 - ⑥ 学校環境の安全管理及び環境衛生の維持向上に努める。
- (5) 多様な教育活動を通して生き方を学ばせ、豊かな人間関係と社会性を育成する。
- ① 情報化社会に対応できる子どもを育てるため、タブレットを使った学習や情報教育に取り組み。また、プログラミング教育を進め、プログラミング的思考力を育てる。
 - ② 「外国語」や「外国語活動」等を中心にして、英語のコミュニケーション能力を高め、国際的な感覚を育てる。
 - ③ 人権・同和教育を基盤として、学んだことが活かされる道徳教育の実践に取り組み。
 - ④ 様々な活動や出会いを通して、毎日の生活や将来の生き方を考える取り組みを進める。また、キャリアパスポートを活用し、将来への展望を持たせる。
 - ⑤ 地域の自然や文化にふれることを通して地域のよさを理解し、郷土愛の育成に努める。
 - ⑥ 家庭及び地域社会との連携を密にし、地域に開かれた特色ある学校づくりをめざす。

5 教職員の学校経営への参画と働きやすい環境づくり

- (1) 学校教育目標の実現のため、教職員の参画意識の高揚と連帯感あふれる職場づくりに取り組み。
 - ① 教職員一人一人がチームの一員として学校づくりに参画する意識をもち、学校経営に積極的に取り組む。そのため教職員どうしの対話を心がける。
 - ② 「報・連・相」の徹底と連携をはかり、管理職を含めたチーム力の向上をめざす。
 - ③ OJT (On-The-Job Training) を推進し、若い職員と経験豊富な職員が協力し合う。
- (2) 教職員一人一人がその能力を十分発揮できるよう、働きやすい職場環境づくりをめざす。
 - ① 総勤務時間の縮減と教職員の労働安全衛生の確保を図るため、勤務時間の弾力化を進める。
 - ② 「過重労働報告」の取組を通じて総勤務時間の縮減に努め、過重労働が月平均 30 時間以下となるようにし、月 45 時間、年間 360 時間を超える時間外労働者「0」を目指す。
 - ③ 業務内容の効率化、スリム化を図り、過重労働時間削減に努める。
 - ④ 毎週水曜日を定時退校とする。
 - ⑤ 「年休」「特休」等の取得を推進し、年休は年間 15 日以上取得できるようにする。そのため、教職員が互いに補いあえる体制づくりや雰囲気づくりに努める。
 - ⑥ 会議・研修の時間をできるだけ短縮し、所要時間 60 分以内を目指す。
 - ⑦ 学期に 1 回以上、安全衛生委員会を開き、教職員の健康や勤務などについて協議する。
 - ⑧ 信頼される教職員であるために、全職員が服務規律を遵守し、コンプライアンス・ミーティング・職員研修に取り組む。